

中学2年生希望者が洛北高校附属中学校訪問研修を行いました

令和6年9月7日（土）、中学2年生希望者38名が京都府立洛北高等学校附属中学校を訪問しました。午前中は、京都大学総合博物館を見学しました。常設展として、自然史、文化史、技術史に分かれたブースが設置されています。ここでは、京都大学が世界に発信している研究成果を生で体験できるので、生徒は高志学ノートにメモを取りながら知見を深めていました。また、企画展として「宇宙からの手紙」と題して、地球外物質研究の始まりを告げた隕石や塵、探査機が持ち帰った天体の欠片が展示されていました。夏休み初めに特別授業で地球外生命体の存在について考える学習をしていたので、さらに興味や関心を深める研修となりました。



午後は、洛北高校附属中学校を訪問し、同じ中学2年生36名と数学の課題に取り組みました。2校混合の15グループに分かれ、Society5.0のセキュリティを担保している暗号化の仕組みを理解し、使えるようにする学習を行いました。授業開始前から生徒が自分たちで自己紹介し合い交流を深めており、課題に取り組む際には2校の垣根なく考えを出し合っていました。コンピュータの仕組みや暗号化の流れ、計算ソフトの使い方など普段の授業では馴染みのない知識や操作に加え、合同式や周期性といった高校数学の内容にも踏み込んだ内容がありました。初めは思うように思考が進まない時間帯もありましたが、2校で交流して同じ課題に取り組む良さが生き、途中で諦めることなく課題に真剣に取り組む生徒の姿が印象的でした。

後半には、与えられた課題だけでなく「自分たちでオリジナルの暗号のルールをつくる」という難易度が高い活動にも取り組みました。オリジナルの暗号を発表する場面では、生徒の深い思考の過程が分かり柔軟な発想力と理解力の高さを感じました。3時間通しての探究活動でしたが、最後まで集中力を切らさず取り組む姿はとても頼もしく感じられました。

（生徒感想）

- ・洛北高校附属中の人たちと協力して問題を解決できて、一人で解けたときよりも達成感がありました。協力の必要性を実感できたので一人で考えることも大切だけど、今後もいろいろな考えを取り入れることも重要視していきたいです。
- ・出題された難しい暗号をグループで手分けして当てはまりそうな英単語を探したり、数人で共有して考えたりすることで一人では解決できないことも数人の知恵を集結することで解決できることが、本当に楽しかったです。

